

第7代SPE 日本支部長として

山口章三郎
(1984～1985)



1. SPEとのかかわり

1960年、SPEの機関誌SPE, *Journal*を購読し始めたのが、SPEと私とのかかわりの始まりであった。1965年に、どういう経路からか、SPE本部から投稿の招請状が届いたので、*Journal*に掲載されるのではと思って、一論文を提出した。ところが、これを1966年3月にモントリオールで開かれるSPEの ANTECで発表するようにという連絡が届いた。かねて、この世界的なプラスチック技術協会の実情を知りたいと思っていたときとて、第22回の前記 ANTECに論文の発表を兼ねて出席したのが2回目のかかわりであった。

ついで1974年のサンフランシスコにおける第32回、1981年のボストンにおける第39回、ついで1982年サンフランシスコにおける第40回の各 ANTECに研究発表を兼ねて出席し、第39回における論文はSPEの論文集である *Polymer Engineering and Science*の Vol. 22, No.4 (1982)に掲載された。この毎年開かれる ANTECの、準備方法、運営方法、内容の豊かさは、いつも乍ら感心させられ、我国の年次大会との差をはっきりと示され、日本の未熟さが痛感された。特にそのとき配布される *Technical Papers* (論文集)は要旨でなくて、全論文であることが、テンポの早い技術の情報としてまことに有益である。

SPEの日本支部とのかかわりは1968年頃、その後の membership chairan の広恵章利氏の薦めて日本支部の会員となったのに始まり、1973年から3ヶ年 Director となり、ついで1976年から1983年まで8ヶ年 Vice President を勤めた。この年、古希を迎え大学の定年も近く、寄る年波とてSPEをも近く retire しようとも考えておりましたところ、1984年度から President にという話があり当惑した。しかし新旧替の好時期でもあるので1ヶ年位なら迷惑をかけることも少ないと考え、交替期の one point relief として、1ヶ年を限って President をお引受けすることとなった。

2. 日本支部長の1ヶ年(1984・7～1985・6)

1984年度の1ヶ年はRETECの開催もない無事平穏な一年であったが、主な仕事は支部長、副支部長の選出方法の決定と、支部名誉会員制の制定とであった。

1956年発足したSPE日本支部の支部長は、初代から6代まで、その任期はそれぞれ7年、7年、2年、5年、5年、3年、と一定となっていなかった。この辺で適当な年限と選出方法をという事で、支部長の任期を原則として2ヶ年(山口は例外)とし、副支部長を2名置き、その中の1名は次期支部長候補とすることし、その選出は支部役員会によることとした。

従来SPE本部には名誉会員(Honorary member)制はあるが、日本支部名誉会員制を、1985年から次のような特典をもつものとして定めた。

- (1) 会員名簿に永久に名をとどめられ、例会、RETEC等の会合通知、Newsletterを継続して受ける。
- (2) 例会出席の際、参加費を半額免除される。
- (3) RETECに招待される
- (4) 支部費分担を免除される。

名誉会員は役員会の推薦によって決定し、今回は初代支部長、大島敬治氏と第2代支部長、中尾忠雄氏の二名が決定した。

なお本支部において従来とも行われていた隔月の例会としては次の講演に討論とが行われた。

(1) OA機器へのプラスチックの応用について、

和田 守叶氏 (東芝)

1984-7-24 於合成樹脂技術協会

(2) 高画質家庭用ビデオテープの開発

—家庭用 1/2 インチビデオテープの開発を中心にビデオテープの現状と
技術展望、主として高分子素材の立場から—

辻 延雄氏 (富士フイルム(株)、磁気記録研究所・研究部長)

1984-9-26 於合成樹脂技術協会

(3) 射出成型設計へのシュミレーション応用

—Mold Flow の実用例—

関谷 重彦氏 (日産自動車、テクニカルセンター)

1984-11-28 於合成樹脂技術協会

(4) グラフトポリマー、プラスチックの複合化技術

井手 文雄氏 (三菱レイヨン中央研究所、所長)

1985-1-16 於合成樹脂技術協会

(5) 液晶ポリマーの成形について

殿谷 三郎氏 (大阪市立工研、研究主幹)

1985-3-15 於合成樹脂技術協会

(6) プラスチックの表面処理(塗装)の進歩

三原 一幸氏 (カシュ(株))

1985-5-28 於中央会館

なおその間の役員として、副支部長に大野一郎氏、Tressurer に松崎清一郎氏、Planning を神谷氏に引継いで田中勝一氏、secretary に永井進氏などが担当した。例会開催日の前段の午後4時から6時に涉って役員会を開いた。

特に全般的な支部の運営については、永井進氏か一手に引受けて詳細な資料を準備して、よく取纏められ、例会については、田中勝一氏が、御多忙のところを、よく連絡をとって実行に当たられた。お蔭で仕事らしい事もせず一年間を済ますことができたことは、これら各役員の援助によるものと感謝している。

なお1984年7月1日の会員は115名、1ヶ年の収入は3,592,502円であった。